

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号： 17301
 研究種目： 挑戦的萌芽研究
 研究期間： 2009 ～ 2011
 課題番号： 21659531
 研究課題名（和文）： 社会的不利条件下の女性と子供のヘルスリテラシー向上のための地域エフィカシー要件
 研究課題名（英文）： Community efficacy factors for improving health literacy of socially disadvantaged women and children
 研究代表者
 大西 真由美（OHNISHI MAYUMI）
 長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授
 研究者番号： 60315687

研究成果の概要（和文）：

社会的不利条件下にある女性と子供として、授乳期にあるHIV陽性女性ならびに母子感染によるHIV陽性の子ども達を対象とし、本研究を実施した。彼らに対し、医療的アプローチのみならず、心理・社会的アプローチも含めてそれぞれの利用可能な医療社会資源状況や発達段階に応じた包括的アプローチが必要とされると共に、HIV/AIDSに関する地域社会でのHIV陽性あるいはエイズ孤児の受容状況を踏まえた地域支援体制を検討する必要があると考える。

研究成果の概要（英文）：

Socially disadvantaged women and children, including HIV-positive women who are breastfeeding and HIV positive children under-15 need comprehensive support not only based on medical but also on psycho-social approach. In planning such support, it is also necessary to take into account the availability of medical and social resources and their development stages of the children, and acceptance of HIV-positive people and AIDS orphans in their community.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	0	1,000,000
2010年度	1,200,000	0	1,200,000
2011年度	900,000	0	900,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	0	3,100,000

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目： 看護学、地域・老年看護学

キーワード： 社会的不利条件、地域エフィカシー、HIV陽性女性、授乳、エイズ孤児

1. 研究開始当初の背景

社会的不利条件下におかれている人々、特に女性と子供の生活と健康水準は、様々な社会的健康決定要因の影響を受け、困難かつ危機的な状況に置かれている。また、社会的不利条件下におかれた女性と子供の持続可能

な健康水準の向上と保持のためには、コミュニティの保健医療従事者ならびに当事者同士のピア・サポートを含む資源の活性化とコミュニティの参加が不可欠であることが示唆されている。

2. 研究の目的

(1) 様々な条件下におかれている授乳期にある HIV 陽性女性の健康水準ならびにヘルスリテラシー獲得状況を明らかにする

(2) 様々な条件下におかれているエイズ孤児の健康水準ならびにヘルスリテラシー獲得状況を明らかにする

(3) これら社会的不利条件下におかれた女性と子供の生活と健康水準に影響を及ぼす社会的負荷のメカニズムならびに地域エフィカシーとの関連を明らかにする

3. 研究の方法

タンザニア国ダルエスサラム州およびキリマンジャロ州において、1) コミュニティにおけるキー・インフォーマント・インタビュー、フォーカス・グループ・ディスカッション、ならびにコミュニティ・プロファイルの作成により、地域エフィカシーを評価した。2) 授乳期にある HIV 陽性女性の自らの健康水準の向上と育児に関するヘルスリテラシー獲得状況、ならびに3) 5-15 歳未満の子供の自らの健康水準の向上に関するヘルスリテラシー獲得状況を、構造化面接法により、評価した。

1) ~ 3) を総合的に評価し、社会的不利条件下におかれた女性と子供の生活と健康水準に影響を及ぼす社会的負荷のメカニズムと地域エフィカシーとの関連を検討した。

4. 研究成果

1) コミュニティ・プロファイル

調査対象地域としたタンザニア国ダルエスサラム州およびキリマンジャロ州の地域エフィカシーを比較検討した。ダルエスサラム州は、タンザニア国の実質的な首都機能を持ち、医療機関ならびに様々な医療社会資源へのアクセスも国内では最も充実しているが、一方で、社会経済格差も大きく、またハイリスク患者が大学病院等に集まることから、乳児死亡率、妊産婦死亡率といった保健指標は必ずしも良好とは言えない。地方からの移住者・出稼ぎ者も少なくなく、地方でみられるような地縁を基盤とした地域エフィカシーは必ずしも高くはない。

キリマンジャロ州は、タンザニア国内の他州と比較し、乳児死亡率、妊産婦死亡率が低く、保健指標が良好に保たれていた。また、女性の識字率、専門技能者による出産介助率も他州に比べ高く、加えて血縁および地縁に基づく人々の関係性は強固であり、それらがポジティブに機能した場合に、女性の好ましい保健行動を支える基本的能力の獲得ならび

に基本的な地域エフィカシー強化要因の潜在可能性が示唆された。

ダルエスサラム州およびキリマンジャロ州において、コミュニティ・リーダー、5歳未満児を持つ女性、保健センター職員らへのキー・インフォーマント・インタビューならびにフォーカス・グループ・インタビューを実施した。両方の地域において、女性の授乳行動に対する家族およびコミュニティからの強いプレッシャー、つまりHIV陽性女性が母子感染予防のために授乳を回避することへの否定的な態度、ならびにエイズ孤児とそのケアや支援に対する抵抗感があることが明らかになった。

2) 授乳中のHIV陽性女性のヘルスリテラシー

ダルエスサラム州およびキリマンジャロ州において、PMTCT (HIV 母子感染予防) クリニックに来所する母親へのインタビューを実施した。HIV 陽性の授乳期にある母親らは、看護師らによる継続的カウンセリングや支援により、粉ミルクまたは牛乳やヤギ乳による育児を行っていたが、一方で「授乳しない母親」に対する家族や地域住民からのプレッシャーを重荷に感じていた。WHO/UNAIDS は、2010 年からガイドラインにより、生後 6 ヶ月までは、HIV ステータスに関らず完全母乳栄養を推進しているが、これまで母乳および人工乳についてインフォームドコンセントの上、母親が選択する方法を取っていたため、中小規模の地域病院やクリニックの PMTCT に関する保健医療従事者や授乳期にある母親自身に、その知識・情報が浸透するまでには、しばらく時間を要すると推察された。

キリマンジャロ州においても、粉ミルク、牛乳等による育児を行なっている者と、母乳による育児を行なっている者がいた。ダルエスサラム州と同様に、PMTCT クリニックの看護師等、カウンセリングにあたる保健医療従事者に対して、十分に最新の知識・情報が浸透している状況にはなかった。必要に応じて、研究者らによる、PMTCT 従事者に対する授乳カウンセリングに関する研修を実施した。

3) 15歳未満のHIV感染クリニック来所児のヘルスリテラシー

ダルエスサラム州およびキリマンジャロ州において、15歳未満のHIV感染クリニックに来所する子ども達へのインタビューにより、ヘルスリテラシーに関する調査を実施した。

HIV陽性の15歳未満の子ども達は、1ヶ月に1回の受診により、服薬モニタリングとカウンセリングを受けながら、健康状態の維持に努

めているが、AIDS孤児も少なくなく、経済的理由により、必ずしも適切な栄養摂取ができていない状況であった。また、母子感染によりHIV陽性となった子ども達が思春期に達してきており、性行動やセクシュアリティに関するガイダンスが必要であるにもかかわらず、公的保健医療サービスの中では十分に対応できていない現状にあった。

15歳未満のHIV陽性の子ども達に対するインタビューにおいては、月1回の服薬モニタリングとカウンセリングの他にも、クリニック受診時の待ち時間を利用して行なわれている心理カウンセラーによるプレイ・セラピー、孤児に対して教会で行なわれている「土曜日学校」など、医療的ケアのみならず、心理・社会的ケアも提供されており、限られた社会資源の中で子ども達のヘルスリテラシーを向上させるための機会提供について工夫されていた。しかしながら、世界的な経済不況の影響もあり、これまで里親制度や個人の基金や財団等によって孤児たちの生活を経済支援していた者たちが、支援の中断をしてしまうことにより、教育を受けられなくなってしまう子ども達のエピソードが散見された。また、何らかの形でこのような社会サポート体制とつながっている子ども達の他に、様々な偏見や物理的アクセスの問題から、恩恵を受けていない子ども達へのアウトリーチ活動の検討も必要だと考えられた。

4) 結論

ダルエスサラム州においては、地縁を基盤とした地域エフィカシーが充実しているとは言えず、また都市部であるがHIV陽性者やエイズ孤児に対する偏見は根強い状況にあった。一方、他州に比べて医療社会資源へのアクセスが容易であり、地域エフィカシーの不足分を公的あるいは民間の医療社会資源の量と質で補っていた。

キリマンジャロ州では、必ずしも医療社会資源が充実している訳ではないが、比較的一般住民の教育レベルが高く、また血縁・地縁を基盤とした地域エフィカシーが充実しており、物理的な医療社会資源の不足を補っていた。

授乳期にあるHIV陽性女性ならびに母子感染によるHIV陽性の子ども達に対して、医療的ケアのみならず、心理・社会的なケアも含めてそれぞれの利用可能な医療社会資源状況や発達段階に応じた包括的ケアが必要とされると共に、HIV/AIDSに関する地域社会での受容状況を踏まえた地域支援体制を検討する必要があると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

1. Ohnishi M, Nakao R, Kawasaki R, Nitta A, Hamada Y, Nakane H. Can Izakaya pubs and snacks contribute to improving mental health of middle-aged Japanese men? *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 22(1): 41-55, 2011.
2. Ohnishi M. Association between orphans' subjective happiness and their daily life in an underserved setting. *The Japanese Journal of Health and Medical Sociology*, 22(1): 41-55, 2011.
3. Ohnishi M, Nakao R, Shibayama T, Matsuyama Y, Oishi K, Miyahara H. Knowledge, experience, and potential risks of dating violence among Japanese university students: a cross-sectional study. *BMC Public Health*. 11:339, 2011.
4. Ohnishi M, Notiço E. Reduction of health-related risks among female commercial sex workers: learning from their life and working experiences. *Health Care for Women International*. 32:243-260, 2011.
5. Ohnishi M, Nakamura K. Underserved adolescent orphans' knowledge regarding sexually transmitted infections and HIV/AIDS and sexual behaviour in a setting with a high prevalence of HIV. *Japanese Journal of Health and Human Ecology*. 76:237-252, 2010.
6. Ohnishi M, Nakamura K. Capacity building of local governmental and non-governmental organizations on environmental hygiene through a community-based training workshop program. *J Interprof Care* 23(1): 4-15, 2009.
7. Iwanaga Y, Tokunaga M, Ikuta S, Inadomi H, Araki M, Nakao Y, Miyahara H, Ohnishi M, Oishi K. Factors associated with nutritional status in children aged 6-24 months in Central African Republic: an anthropometric study at health centers in Bangui. *Journal of International Health* 24 (4): 289-298, 2009.

[学会発表] (計1件)

1. Mayumi Ohnishi. Underserved adolescent orphans' knowledge and behaviour regarding STI and HIV/AIDS. *VIII Conference of the Global Network of WHO Collaborating Center for Nursing and Midwifery Development*, São Paulo, July 2010.

〔図書〕（計 1 件）

Yuko Nakao, Sumihisa Honda. Infant feeding practices: a cross-cultural perspective: early initiation of breastfeeding and its beneficial effects in Japan, Springer, 2010.

〔産業財産権〕

該当無し

〔その他〕

該当無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大西 真由美 (OHNISHI MAYUMI)
長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・
教授
研究者番号： 60315687

(2) 研究分担者

大石 和代 (OISHI KAZUYO)
長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・
教授
研究者番号： 00194069

中尾優子 (NAKAO YUKO)
長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・
教授
研究番号： 40325725

(3) 連携研究者

なし